

スポーツ運動を通して学ぶものは、ただに技を競うのみでなく「自己との戦い」などと表現される内面的な修練こそが、重く視られねばならない。又「チームワーク」と称する社会生活での、心と心との触れ合を養う修練の場でもある。

青少年に、より自然的に、より興味を高めつつ、体操にスポーツに、その身心を労し、身心を役して練磨に励む間に、宗祖棲神の祖山に学ぶ者の内外両用に亘つての人格完成をこそ、この体育館の目途としたい。

体育館落成記念行事、学園祭は、十一月一日は、弁論大会、仮装行列、二日目は箏曲、華道、茶会、空手演武会が順当に終了し十一月三日文化の日、体育館落成式でした。

あたかも落成を祝福するかの如く澄んだ空は辛々鋭ゆる古木の鮮緑をバックに壁・覺堂々広濶森嚴なる体育館にて法主猊下を導師とし、式は莊嚴に行われました。

式後体育館開きには、「法主杯争奪、県下五大学柔道大会」を催しました。

柔道は本学の校技とも云うべきものであり武道であり、民族文化でもある。

身体活動の実践を通しての忍耐力や克己心を高め、礼儀やその他の精神的な、修練を通して、社会的な態度を育成

し、身心共に豊かな人生を築くに適切であることから、我が校は必須教科として、教育課程に位置づけてあるのがあります。試合の場の少ない本学において絶好の場が与えられました。

「投の形」「古式の形」等、演武して頂いた、講道館の依田先生、山梨県柔道連盟会長浅川先生、かなりの高令にもかかわらず、烈しい動き、姿勢、礼儀等、古武士を偲ばせる、尊い程の偉容に深く教えらるる所がありました。満場寂として声なく、感激の思いに、過したことは、スポーツ（体育）を知る者の、喜びであると共に、これこそ体育館落成記念であると感謝の気持ちで一ぱいあります。

終りに体育館の建立を仏祖三宝に奉謝すると共々諸先輩各位に感謝申上げ、今後の精進をお誓い致します。

（体育主任）

学 会 報

▲昭和四十三年度▼

○日本仏教学会

昭和四十三年度の日本仏教学会学術大会は、十月十九日

二十日の二日間にわたり、駒沢女子短期大学を当番校として、開催された。

今回の研究共通テーマは「鎌倉仏教の諸問題」であり、本学からは次の通り研究発表を行った。

一、末法思想に関する試論

——「末法為正」(日蓮)の意義について——

町田 是正

○第二十一回日蓮宗教学研究発表大会

日蓮宗務院に於て、教学大会が十月二十五日二十六日の両日にわたって開かれた。共同研究テーマは「日蓮教学の諸問題」であった。尚、本学からは次の通り研究発表がおこなわれた。

一、インド七世紀初頭の宗教状況

高橋 堯昭

○第一回海外視察派遣教授渡印

海外視察派遣教授の第一陣として、本学から疋田英肇師・長谷川義浩師・望月海淑師の三教授が、インドの仏蹟及びタイ・カンボジアなど東南アジア諸国を歴訪してきた。

一行は十一月二日羽田を出発、約一カ月近くにわたって無事視察を終え、下旬に帰国した。

○日本印度学仏教学会

第十九回日本印度仏教学会の学術大会は、仏教大学を当番校として、六月一日二日の両日にわたり、開催された。

本学からの研究発表者は、次の通りであった。

一、日蓮聖人に於ける仏使の自覚

上田 本昌

△昭和四十四年度▽

○日本仏教学会

「仏教と社会の諸問題」を共同研究課題として、十一月八日九日の二日間に行われ、種智院大学を会場校として開催された。

本学からは、次の通り研究発表がおこなわれた。

一、仏教の展開とその基盤との対応

高橋 堯昭

○第二十二回日蓮宗教学研究発表大会

日蓮宗々務院を会場として、十月二十四日二十五日の両日にわたり、第二十二回研究発表大会が開かれた。

第一日目の午後は、「近代宗学の回顧と展望」と題して特別発表が行われた。これは先きに物故された望月欽厚・松木本興・鈴木一成・執行海秀の四教授について、それぞれの業績についての発表であった。

尚、本学からの研究発表者は、次の通りである。

一、松木本興先生の教化と近代宗学（特別発表）

上 田 本 昌

二、山梨県寺院に於ける二・三の問題

望 月 海 淑

一、宗 宣 言

室 住 一 妙

○第二回海外視察派遣教授渡印

海外視察派遣教授の第二陣として、本学の上田本昌師は十一月二日から約一カ月近くにわたり、インド・ネパールの仏教遺蹟を始め、タイ・カンボジャなど東南アジア諸国を巡って、仏教国の現状を視察して来た。

学会のお知らせ（予告）

◎来る十月二日三日の両日、本学に於て、第二

十三回・日蓮宗教学研究発表大会が開かれま
す。

◎また十月二十三日二十四日の両日は、本学に
於て、日本仏教学会の学術大会が開かれま
す。